

F-25 家事労働に関する一考察 —— 献立を例として ——
日本大短大 O石和千鶴 佐藤ます

目的 前回、家庭経営に関する主婦の意識を調査した結果、家事労働の中で困難且つ面倒に感じている作業は、献立を考えたり、家計簿をつけたりする知的作業であることがわかった。家事労働に関する価値や認識を主婦がどのように捉え、作業をすすめるためにどのような仕組みがなされているかを、献立を例として明らかにすることを目的とする。

方法 アンケート方式をとり、静岡県内の東部を中心に居住する主婦300名余りを調査の対象とした。アンケートは6項目よりなり、献立に対する主婦の価値観、家族の満足感、計画をたてる時の思考の範囲等をきいたものである。調査の結果を全体的傾向と、学歴別傾向との二つの面から検討した。

結果 献立に関する主婦の価値や認識の所在が明らかになった。又家族の満足感を得るためにかなりの意を用いていることも理解できた。このような知的要素の多い家事労働に於ては、思考のプロセスとして各自の思いつきはかりでなく、ルール化された方法を考える必要があることを感じた。学歴別に於ては、学歴の高い主婦の方が献立をわすらわしくないと感じており、変化をもたせることを楽しく感じていることが判明した。